

教育格差の改善のために私達に出来ること

—「居場所づくり」というアプローチから—

目的

教育格差の是正に努め、子ども達の居場所を作る

定義

「環境要因」によって学習や課外活動に差が出ていること

定義の中で出てきた“環境要因”とは

★難関大学に進学する学生は裕福な家庭が多い

→大学受験をするまでの義務教育家庭や高校過程において

主に経済要因において差がついている

政府や自治体が一丸となり、塾や、習い事などに補助金を出すことが教育格差を縮めることになる。

解決方法

① こども食堂



② 学習支援



政策立案

① こども食堂

→落ち着いて過ごせる居場所にする。

(第三の居場所)

進路の相談なども出来る環境へ

② 学習支援

→オンラインと対面のハイブリット型の学習支援

(誰でも参加できる機会づくり)

[講師や生徒など集まりやすく、個々の事情のある方々も参加しやすくする]

まとめ・展望

まとめ：生徒の「居場所」を作ることで、格差を是正する。

展望：政策の具体化を図り、実践できる状態まで考えていく。